

船舶事故調査報告書

平成27年10月22日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄司邦昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根本美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成26年12月18日 02時30分ごろ
発生場所	島根県隠岐の島町黒島埼南岸沖 黒島埼灯台から真方位194° 350m付近 （概位 北緯36° 16.00′ 東経133° 23.06′）
事故調査の経過	平成26年12月18日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ジンハイ 805（中華人民共和国籍）、255トン 3309031988120001、個人所有 38.40m (Lr) × 7.00m × 3.75m、鋼 ディーゼル機関、441.0kW、1988年12月15日（建造年月日）
乗組員等に関する情報	船長（中華人民共和国籍） 男性 44歳 免状等不詳 航海士A（中華人民共和国籍） 男性 44歳 免状等不詳 甲板員A（中華人民共和国籍） 男性 38歳 甲板員B（中華人民共和国籍） 男性 48歳 甲板員C（中華人民共和国籍） 男性 33歳
死傷者等	死亡 1人（船長）、行方不明 1人（甲板員A）、重傷 2人（甲板員B及び甲板員C）、軽傷 2人（乗組員）
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長、航海士A及び甲板員Aほか22人（全員中華人民共和国籍）が乗り組み、島根県隠岐諸島北方沖で漁を行っていたが、荒天のため黒島埼南方沖で避難をしていた。 本船は、漁を再開するために、航海士Aが単独の船橋当直について漁場に向かう際、平成26年12月18日02時30分ごろ、黒島埼南岸沖の浅瀬に乗り揚げた。 本事故発生場所付近で荒天避難をしていた僚船の乗組員は、04時10分ごろ、海上保安庁に本事故を通報した。 本船の乗組員23人は、自力で本船から脱出し、6人が病院に運ば

	<p>れ、うち2人が骨折等で入院し、ほかの2人が第六頸椎骨折、くも膜下出血及び肺炎の疑いで、隠岐空港から美保航空基地に搬送された後、島根県出雲市内の病院に再搬送された。</p> <p>船長及び甲板員Aは、本事故後行方不明となったが、海上保安庁の巡視船潜水土及び特殊救難隊が捜索中、船長が、19日09時30分ごろ、本事故発生場所付近の岩場でロープに絡んだ状態で発見され、18日02時30分ごろ死亡したと検案された。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図、写真1 本船の状況1、写真2 本船の状況2 参照)</p>
気象・海象	<p>気象：天気 雪、風向 北西、風力 7</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の中央期、波高 約6m</p> <p>島根県隠岐区域には、本事故当時、波浪警報並びに大雪、風雪及び着雪の各注意報が発表されていた。</p>
その他の事項	<p>本事故当時、本船の付近には十数隻の僚船が避難していたが、操業した他船はいなかった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、黒島埼南方沖で荒天避難した後、漁場に向かう際、黒島埼南岸沖の浅瀬に乗り揚げたものと考えられるが、乗組員からの情報が得られなかったことから、乗揚に至る状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、黒島埼南方沖で荒天避難した後、漁場に向かう際、黒島埼南岸沖の浅瀬に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警報、注意報が発表されているときは、出漁を控えること。

付図1 事故発生場所概略図

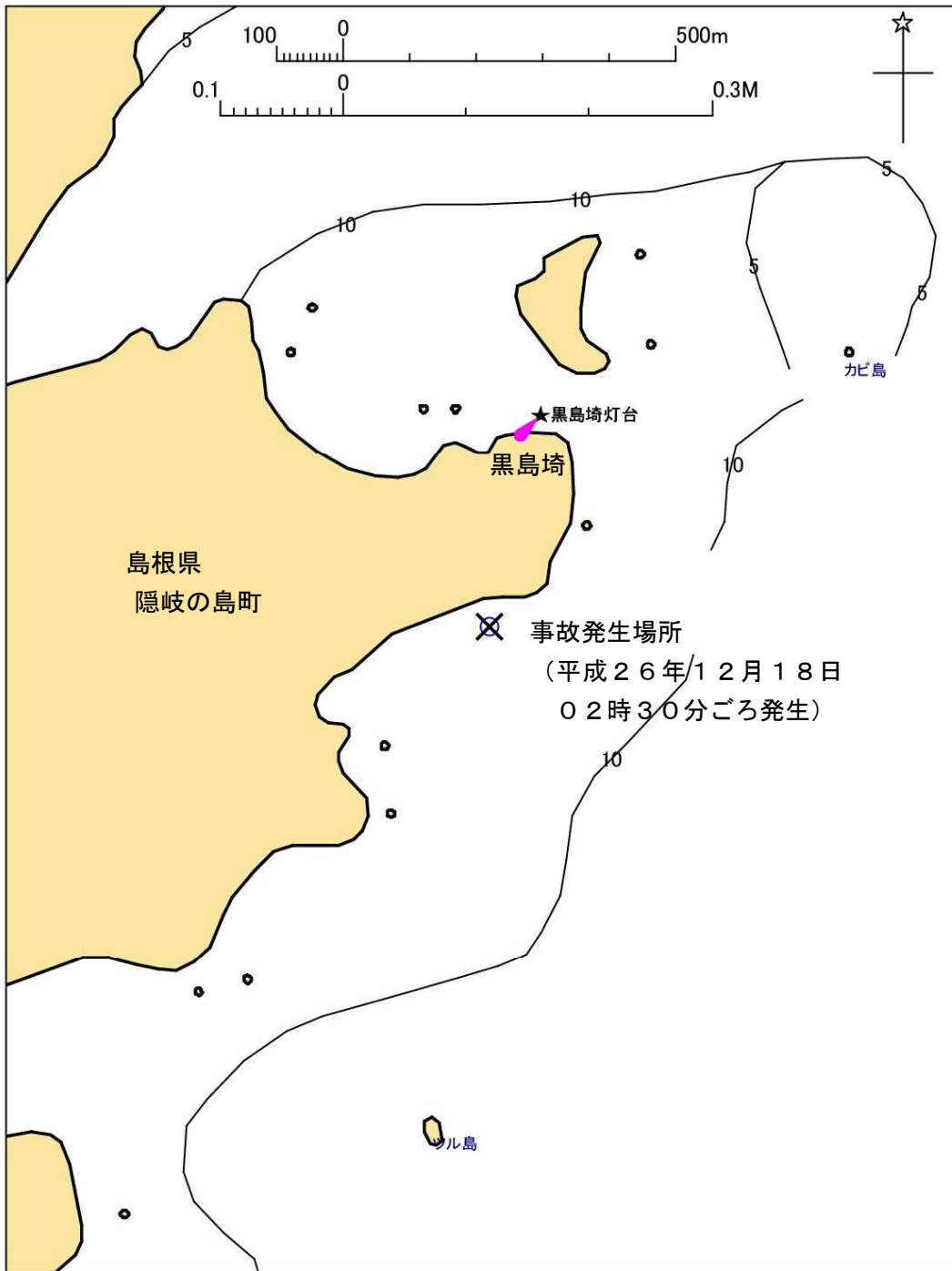


写真1 本船の状況1



写真2 本船の状況2

